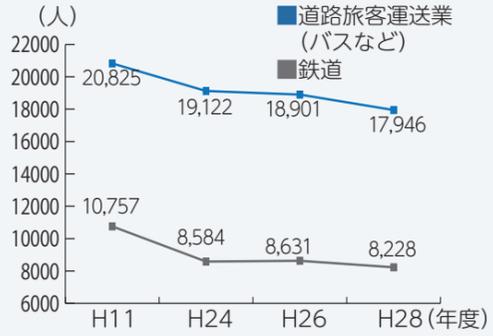


県内の鉄道および道路旅客運送業の従業員



出典：総務省「経済センサス・基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサス・活動調査」再編加工

バス利用で生活を豊かに

●課題対策への積極的な取組

新型コロナウイルスの影響による路線バスの乗客数の減少がありましたが、アフターコロナに移行し、乗客数はコロナ禍前の約9割まで戻りました。しかしながら、テレワークなどの働き方改革や生活スタイルの変化により、以前の利用水準までは戻らないものと見込んでいます。また、少子高齢化による労働人口の減少などによる**運転士不足**も大きな問題です。そのため、運転士確保の取組として、免許取得支援制度の充実や、平日限定勤務など働き方に合わせた勤務体系を設けるなどに努めています。



神姫バス株式会社 計画課
地域公共交通担当課長
竹内 宏 さん

このようないま現状を打開すべく、市が地域公共交通計画を作成されました。バス事業者として「安定した地域公共交通網の形成・維持」が特に重要であると考えており、利用者が少しでも増えるよう、まちづくり施策と協調、連携しながら改善をめざし、そして安全かつ快適なバスサービスの提供に努めて参ります。

公共交通を利用していただくことで、電車やバスなどを未来に残すだけでなく、環境保全や健康増進にも寄与します。出かける目的をつくり、ぜひ公共交通でお出かけしてください。

●公共交通は生活を支える大切な移動手段
このようないま現状を打開すべく、市が地域公共交通計画を作成されました。バス事業者として「安定した地域公共交通網の形成・維持」が特に重要であると考えており、利用者が少しでも増えるよう、まちづくり施策と協調、連携しながら改善をめざし、そして安全かつ快適なバスサービスの提供に努めて参ります。



※利用者の乗降希望時刻に応じて最適な運行ルートで送迎する事前予約制の乗り合い交通。



地域公共交通は、人口減少をはじめとしたさまざまな要因で利用者が減少しています。さらに少子高齢化の進展や新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う生活スタイルの変化など、公共交通を取り巻く環境は厳しい状況が続く中、移動手段の確保や利便性を確保するために、新たな技術やシステムへの対応が求められています。市では、三木駅の再生やバス路線の見直し、デマンド型交通「チョイソコみき」の導入を行い、持続可能な公共交通網の構築を図ってきました。

加えて、三木市地域公共交通計画を策定し、誰もが安心して利用できる公共交通の構築をめざし、令和6年度から10年度までを計画期間として一丸となって取り組めます。今回は、公共交通の現状と交通事業者の声とともに、三木市地域公共交通計画についてお伝えします。

公共交通を未来に残すために

地域住民や地元企業、交通事業者などの各関係者ととも、以下の「三木市地域公共交通計画」を推進し、公共交通の維持・活性化に取り組みます。

三木市地域公共交通計画

●主な施策

- 神鉄粟生線の適正な運行や持続可能な運営の検討
市独自施策として実施している増便運行の継続など
- 市内地域間を結ぶバス路線網の検討や実施
鉄道や広域的なバス路線と連携を図った市内完結のバス路線網の再構築
- 待合環境の整備による利便性や快適性の強化
複数の公共交通機関の乗り換えを良好にするために、駅やバス停などの待合環境の整備
- デマンド型交通「チョイソコみき」の維持および拡大検討
身近な移動手段の確保に係るデマンド型交通「チョイソコみき」の運行維持と運行拡大の検討
- 公共交通利用の促進
あらゆる公共交通への不安を払拭するために、出前講座やバスの乗り方教室を開催

●主な目標

目標項目	現況値(R4)	目標値(R10)
市内粟生線各駅利用者数	301万人	319万人
バス路線1便当たり利用数	12.28人/便	12.85人/便
各地域の公共交通の人口カバー率	5地区で90%未満	全地域90%以上
公共交通への満足度	満足<不満 19.0%<31.3%	満足>不満

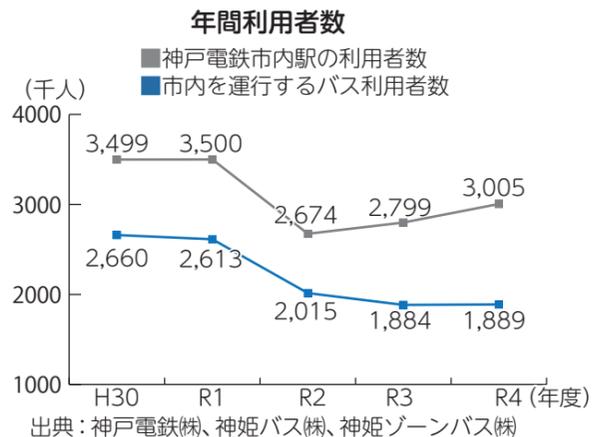


▲詳しくは市ホームページをご覧ください

公共交通の現状と課題

●鉄道利用者数とバス利用者数の減少によるサービス低下

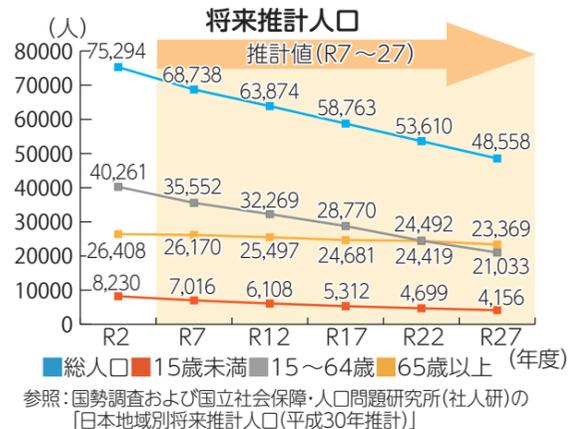
鉄道利用者数もバス利用者数もコロナ禍前には、いまだ戻っておらず、人口減少などにより、更なる利用者数の減少が考えられます。利用者数の減少に伴う減便など利便性低下、またそこからの利用者数の低下といった負のスパイラルによる公共交通サービスの低下が懸念されます。



出典：神戸電鉄(株)、神姫バス(株)、神姫ゾーンバス(株)

●公共交通機関までのアクセス手段の確保

高齢者の増加や運転免許証の返納の増加に伴い、公共交通が重要な移動手段になる方が増えています。しかしながら、駅やバス停まで歩くことが困難な方も多く、公共交通までのアクセス手段の確保が課題となっています。



参照：国勢調査および国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の「日本地域別将来推計人口(平成30年推計)」

●運転士などの公共交通に関わる人材不足の懸念
特に運転士の不足が大きな課題となっており、公共交通の維持が困難となる懸念があります。